

令和6年度
補正予算

「リカレント教育エコシステム

構築支援事業」補助金事業



産業成長を支える 大学リカレント教育プログラム集

目次

領域	大学名	開催地域	プログラム名	
半導体	広島大学	全国・広島	広島大学半導体リカレントアカデミー	p.02
	九州大学*	福岡	半導体経営人材育成プログラム	p.03
	九州工業大学	福岡	半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開	p.04
グリーンエネルギー	長崎大学	長崎	産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業 (IACOW-R)	p.05
	九州大学*	福岡	洋上風力エンジニア等育成プログラム	p.07
ヘルスケア	大阪大学	全国	Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想 ～REACH x バイオDX x ビジネスデザイン～	p.08
	千葉大学	全国・千葉	ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム	p.10
マーケティング	早稲田大学	東京	CMO Program	p.12
DXプロ	北海道大学	北海道	社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成ー ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化ー	p.13
	早稲田大学	全国・東京	スマートエスイーAIトランスフォーメーション: 生成AI産学エコシステム	p.15
GXプロ	北海道大学	全国・北海道	グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築	p.17
	立命館大学	全国・大阪	GXプロフェッショナル + Rプログラム	p.18
SCMプロ	流通経済大学	東京	SCMプロフェッショナル人材育成プログラム	p.21
	東京大学	東京	SCMリカレント教育プログラム	p.23
経営人材向け	早稲田大学	東京	The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)	p.24
	東京女子大学	全国・東京	自信をもって、ビジネスの中心に	p.26
	一橋大学	東京	社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム	p.29
	事業構想大学院大学	全国・宮城・秋田 岩手・山形・福島	地域構想力育成プログラム	p.31
	武蔵野美術大学	全国	Value Creation Program for Leadership	p.32
その他/建築DX	九州大学*	徳島	建築DX人材育成プログラム	p.34
複数テーマ	神戸大学	全国	異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム	p.35

*九州大学: 採択プログラムは同一のものだが、複数領域を展開



【半導体】広島大学: 広島大学半導体リカレントアカデミー

プログラム概要

① 名称

- 広島大学半導体リカレントアカデミー

② 目的

- 半導体企業の持続可能な成長を支援
- 半導体業界と関連する業界の長期的な発展に貢献する人材を育成

③ 対象者層

- 半導体製造現場でのオペレータ人材(技能職)から開発人材・設計人材(技術職)
- 半導体業界での活躍を希望する他業界の人材

④ 育成する人物像

- 高度なスキルを持ち、半導体産業の発展と拡大に貢献する高度半導体人材
- 半導体の作製全般(設計、プロセス、評価)すべてに精通する人材

申込方法

- 調整中 ※今後掲載(更新)予定

担当連絡先

- 広島大学 学術・社会連携支援部研究支援グループ 太呉(ダイゴ)
Mail : syakai-gl@office.hiroshima-u.ac.jp
- Tel : 082-424-6031

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- スキルとレベルが異なる受講者に合わせた4つのプログラム**
 - 半導体製造企業での就業のための技術基礎から最先端の半導体産業の全体像を網羅したプログラムを設置
 - 産業界のニーズを踏まえた技能職人材から、高度な開発のための技術職人材の育成を目的としたカリキュラムを設計
 - 受講者は繰り返しプログラムを受講することで高度半導体人材へ成長が可能
 - 座学と実習を組み合わせた実践的なプログラムを実施
- Web中継・VRコンテンツも活用したりリモート実習**
 - 実習は基本対面で実施し、WebやVRコンテンツを活用したりリモート参加も可能

② アピールポイント

- 半導体を受講者自身で設計、作製、評価**
 - 半導体を設計し、専用設備(クリーンルーム)で作製し、その性質を評価することで実践的な知識と経験を獲得
- それぞれのプログラムの修了時に修了バッジ(デジタルバッジ)を発行**
 - 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能



【半導体】九州大学: 半導体経営人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 半導体経営人材育成プログラム

② 目的

- 半導体技術の動向や産業ダイナミクスの知見を有しつつ、事業環境の地政学的変化や需要構造の変動、事業の市場性や競争優位性を踏まえ、組織をリードできる経営人材の育成プログラムの開発と実施を目的とする

③ 対象者層

- 半導体関連企業における部課長(ミドルマネジメント)

④ 育成する人物像

- 半導体技術や産業の動向の知見と、専門性の高い経営の知見を併せ持つという、これまでの半導体業界に希少であった人材
- 個社戦略に留まらず業界戦略を描き我が国の半導体業界の再興・長期進展を担える経営人材

申込方法

- 調整中※今後掲載(更新)予定

担当連絡先

- 調整中※今後掲載(更新)予定

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- ミドルマネジメント向け経営教育プログラム(短期集中ワークショップ型、60時間研修型等)
 - 自部門/専門領域を超えた視座を持つためのマインドチェンジ
 - 事業価値の創造/獲得に関する基本理論の修得
 - ケースメソッド及び課題解決型学習(PBL)を通じた知識の内面化
- 複数社(バリューチェーンの上流下流の企業等)からの参加者による自社/自業界を超えたネットワーキング
 - 本プログラム参加後も相互に支え合えるミドル経営人材コミュニティの形成

② アピールポイント

- 修了者には、マイクロレデンシャルフレームワーク1.0※を参照してメタデータ項目を設定したデジタルバッジを発行予定
 - ※ 大学の国際化促進フォーラム、Japan Virtual Campus運営委員会、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会の3団体合同によって設立されたマイクロレデンシャル共同WGにおいて2023.3.27に作成されたもの
- 学びを継続できる環境(九州大学ビジネス・スクール進学、短期エグゼクティブ・プログラム履修、価値創造型半導体スペシャリスト特別プログラム等への接続)

【半導体】九州工業大学: 半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開

プログラム概要

① 名称

- 半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開

② 目的

- 半導体分野へさらに人材・資源・投資が結集するエコシステムの構築

③ 対象者層

- 非技術系の企画・営業職、公的機関、金融関係者、さらには半導体分野への新規参入を目指す会社経営層・投資家等

④ 育成する人物像

- 半導体製造技術や製造工程の全体を俯瞰できる非技術系高度人材
- 技術系社員とも高度な専門的コミュニケーションが取れる半導体関連企業内の事務・企画・営業職
- 半導体関連の新規技術の価値や可能性について、自ら判断能力と理解力を持つ金融・公的機関関係者及び投資家
- 自社の強みを活かし半導体分野への新規参入をめざす会社経営層

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- https://www.cms.kyutech.ac.jp/edu_process

担当連絡先

- 九州工業大学 マイクロ化総合技術センター
Mail:seminar@cms.kyutech.ac.jp Tel:0948-29-7580



cms
マイクロ化総合技術センター
Center for Microelectronic Systems

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 半導体の製造技術と一連の工程のイメージを把握できるカリキュラム
 - マイクロ化総合技術センターにおける製造技術一貫教育の実績とノウハウをベースに、近年参加が急増している非技術系者に特化した理解度や教育効果の向上を図った新カリキュラムを設計・提供
- 講師派遣＋遠隔中継・動画＋実測定による現地対面形式
 - 前工程＋後工程＋測定実習(4日間)を、2～3日で短縮実施



動画＋遠隔中継による
試作実習



セミナーでの
録画資産



実試作チップによる測定実習

② アピールポイント

- 高い臨場感と参加者のニーズ・理解度に応じた柔軟な実施
 - 修了者にはデジタルバッジを発行予定。希望者は上級の実参加型実習セミナーへの接続も可能

【グリーンエネルギー】長崎大学: 産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業 (IACOW-R*)

*IACOW (アイエーシーオウ) : Industry-Academia Consortium for Higher Education Program on Offshore Wind (産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム) -R: Recurrent (リカレント)

プログラム概要

① 名称

- 産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業

② 目的

- 洋上風力産業を牽引する高度人材創出とためのエコシステム構築

③ 対象者層

- 長崎海洋アカデミー等での基盤となる講座を習得し、関連分野も含め何らかの実務経験をもつ会社員・社会人を中心層とするが、幅広い受講を期待

④ 育成する人物像

- 次のそれぞれの分野を理解し、プロジェクトの中核的業務を担う人材
 - ①風車概念設計、風車翼設計、ウインドファーム性能向上技術
 - ②技術の標準化と適合性評価の概要、風況観測と流れの解析
 - ③風力開発と漁業との共生、環境モニタリング、地域活性化策の構築
 - ④海洋ロボットの設計・開発・運用及び海洋通信等の体系的技術
 - ⑤浮体・係留設計のための要素技術、浮体と風車の連成解析
 - ⑥海外企業とのジョイントプロジェクトにも対応できるマネジメントスキル

申込方法

- 開講準備が出来次第、申し込みサイトを設定

担当連絡先

- IACOW-Rプロジェクト事務局(長崎大学総合教育研究棟12階)
Mail: 今後専用アドレス設定予定 TEL: 095-800-4130

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 長崎海洋アカデミーやIACOWの大学院教育と連携した6つのコース
 - ①「風車工学・風車ブレードの理論と応用」(R9～本格開講)
 - ②「風力発電技術の標準化と適合性評価、風況解析」(R8～〃)
 - ③「漁業共生と地域活性化」(R7～〃)
 - ④「洋上風力と海洋ロボティクス」(R8～〃)
 - ⑤「浮体・係留の要素技術、風車と浮体の連成解析」(R9～〃)
 - ⑥Offshore Wind Energy MBA イントロダクション(R8～〃)
- 長崎大学が強みを持つ漁業共生、海洋ロボティクス、浮体・係留
 - 大学の研究成果や知見を研究者自ら社会人教育に展開
- 国際的に活躍する実務家講師(長崎大学連携研究員等)が講義
 - 長崎大学が有する国際的な人的ネットワークを駆使

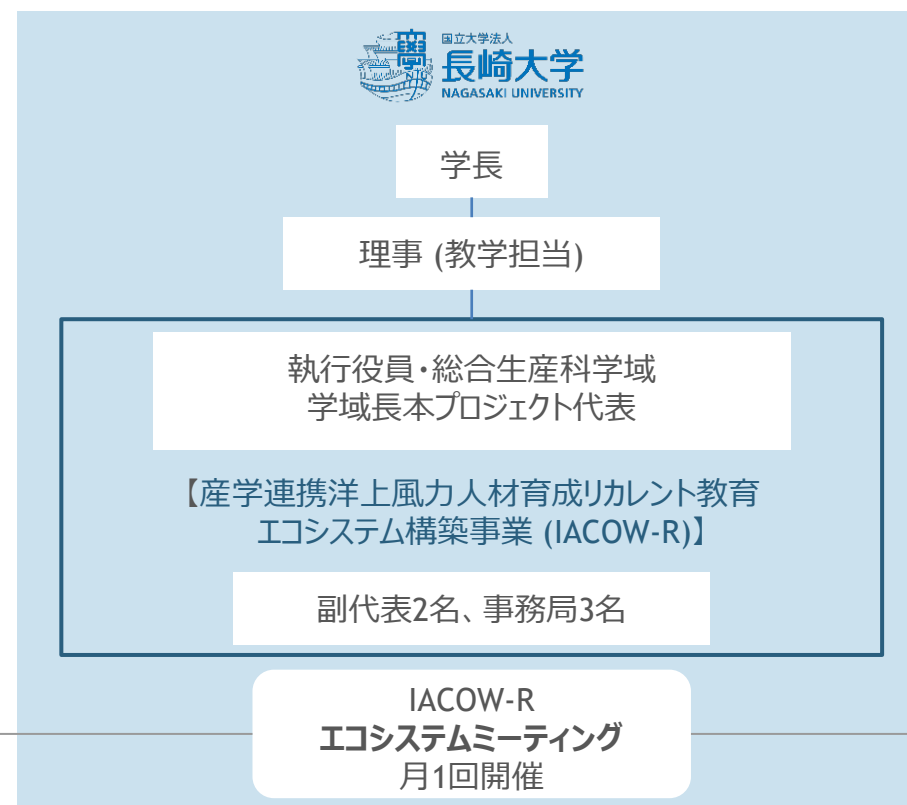
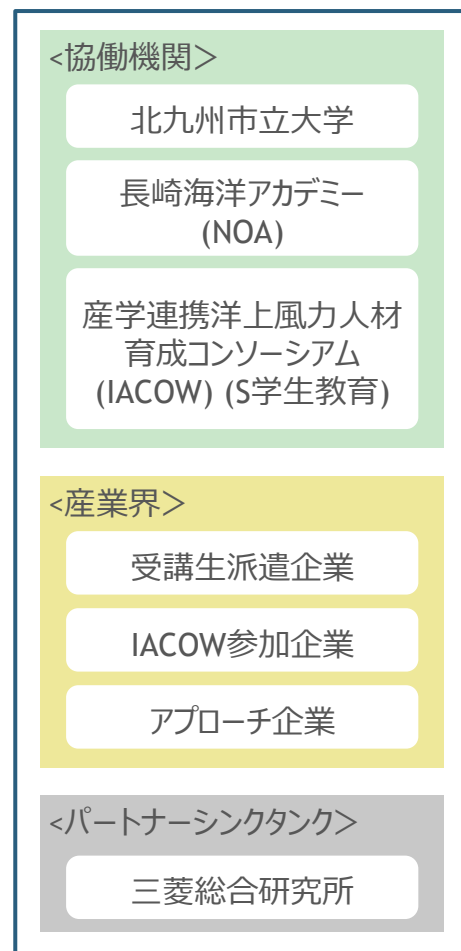
② アピールポイント

- 受講者派遣企業と大学が一体となった教育のエコシステムの構築
 - 講座受講時だけでなく、受講をきっかけとした講師陣と受講企業技術者等の人的ネットワーク構築を通じた技術者コミュニティの形成。IACOWとの連携による学生・大学院生と受講者派遣企業との交流
- 修了者にはデジタルバッジを発行予定
 - スキルの社内外での可視化、キャリアアップ・異動等でのスキル証明

【グリーンエネルギー】長崎大学： 産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業 (IACOW-R*)

*IACOW (アイエーシーオウ) : Industry-Academia Consortium for Higher Education Program on Offshore Wind (産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム) -R: Recurrent (リカレント)

実施体制 (予定)



5. 自走化に向けた工夫

- 技術者のネットワーク形成等、受講だけにとどまらない価値の提供
- IACOW-Sとも一体となった産学連携によるエコシステムを形成 (サプライチェーン企業のメンバー参画等)

3. カリキュラムの概要

【6科目の講座を開発】

- ① 風車工学・風車ブレードの理論と応用
- ② 風力発電技術の標準化と適合性評価、風況解析
- ③ 漁業共生と地域活性化
- ④ 洋上風力と海洋ロボティクス
- ⑤ 浮体・係留の要素技術、風車と浮体の連成解析
- ⑥ Offshore Wind Energy MBA (OWEMBA) イントロダクション (社会人)

【実施予定】

令和7年度

- 6コースのプレ啓発セミナー (毎年開催)
- 「③漁業共生と地域活性化」本格講座開講

令和8年度～9年度

- 他5科目の本格講座順次開講、セミナー開催

4. フィードバック

- 派遣企業、受講者へのアンケート、ヒアリング。講座内容やしぐみの改善を繰り返す



【グリーンエネルギー】九州大学: 洋上風力エンジニア等育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 洋上風力エンジニア等育成プログラム

② 目的

- 政府が2040年までに国内で30～45GW(2018年実績の約10倍強)の導入目標を掲げ洋上風力発電案件形成が進んでいく中で、洋上風力発電事業における事業開発、エンジニアリング及び運用・保守等の領域で人材は大きく不足している実態を踏まえ、洋上風力発電産業におけるエンジニア等育成ためのプログラム開発と実施を目的とする。

③ 対象者層

- 洋上風力発電の主にエンジニアリング領域において新人(新卒・中途・社内異動者)を含む広い対象の人材

④ 育成する人物像

- 洋上風力発電の調査・計画、設計・製造、保守・保全分野におけるエンジニア等の人材

申込方法

- 調整中※今後掲載(更新)予定

担当連絡先

- 九州大学洋上風力研究教育センター(RECOW)
E-mail:info@recow.kyushu-u.ac.jp Tel:092-583-7864

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 学問体系に基づき且つ事例紹介の豊富なカリキュラム
 - 海洋工学、風車工学、風工学、数値流体力学、大気力学、環境経済学、環境工学等の学問体系に基づきカリキュラムを設計
 - 洋上風力発電を推進している企業からの講師陣及び豊富な事例の紹介
- オンラインとオンデマンドのハイブリッド学習
 - 講義はオンライン講義を主体とし、本業で忙しい受講者のためにオンデマンド講義を準備
 - 独自の受講システムにより、快適な受講環境を提供

② アピールポイント

- 修了者には、マイクロレデンシャルフレームワーク1.0※を参照してメタデータ項目を設定したデジタルバッジを発行予定
※ 大学の国際化促進フォーラム、Japan Virtual Campus運営員会、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会の3団体合同によって設立されたマイクロレデンシャル共同WGにおいて2023.3.27に作成されたもの
- 修了者には上位レベル又は新たな専門領域のプログラムの受講を薦めることにより受講生の継続的な学びを支援

【ヘルスケア】大阪大学: Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想

～REACH × バイオDX × ビジネスデザイン～



プログラム概要

① 名称

- Industry on Campus型リカレント教育プログラム

② 目的

- バイオ/ライフサイエンス/ビジネスデザイン分野を牽引する高度人材の育成

③ 対象者層

- バイオDX(機械学習、ビッグデータ解析、バイオインフォマティクス等)や、医薬・遺伝子治療薬、ライフサイエンス領域等に関係する企業の各部門等

④ 育成する人物像

- バイオテクノロジーとデータサイエンスを融合し、DX導入による組織論や経営資源の最大化を視野にDXの方向性を企画する力を育成。
- 産学共創セミナーやライフサイエンスセミナー、ビジネスデザイン等の講義を通じて、企業の成長に直結する人材を育成。

申込方法

- 調整中 ※今後掲載(更新)予定

担当連絡先

- 大阪大学 大学院工学研究科附属 フューチャーイノベーションセンター
Mail: inquiry@cfi.eng.osaka-u.ac.jp Tel: 06-6879-7195

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

・「バイオデータビジネスデザイン論」開講

- 機械学習、ビッグデータ解析、創薬AI、医療AI、ロボティクス、バイオインフォマティクス事業等の各分野の第一人者を講師として招き、座学形式の講義に加え、ワークショップ形式で理解を深め、DX技術の実践力を培う。オンラインと対面のハイブリッド学習に対応

・「産学共創セミナー」「ライフサイエンスセミナー」の開催

- 大阪大学島津分析イノベーション協働研究所主催の産学共創セミナー、パナソニック基盤協働研究所主催のライフサイエンスセミナーを開催。医薬・遺伝子治療・ライフサイエンス領域等における大阪大学の技術シーズを紹介。アイデア着想・研究着手に至るまでの「対話」の機会を提供

・「ビジネスデザイン実践」の講義・演習

- 事業のベースとなる思考力・企画力等に資するビジネスデザイン分野の講義・演習を提供

② アピールポイント

・デジタルバッジの発行やさらなる学修へ

- プログラム受講者にはデジタルバッジを発行予定。また、博士学位取得等、さらなる学修を求める場合にはREACHプロジェクトの活用や工学研究科産学官共創コース入学による継続的な学びを支援

【ヘルスケア】大阪大学: Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想

～REACH × バイオDX × ビジネスデザイン～



- ・ R7年度に「**バイオデータビジネスデザイン論**」を大学院科目として新設。必要な学習要素として、AI等機械学習の本質と適応事例を先行して学び、機械学習がバイオ研究にもたらすインパクト等を理解。
- ・ 機械学習、ビックデータ解析、創薬AI、医療AI、ロボティクス、バイオインフォマティクス事業等の各分野の第一人者を講師として招き、座学形式の講義に加え、ワークショップ形式で理解を深め、DX技術の実践力を培う。

学修目標

- ① AI等機械学習の本質と適応事例等に関する学術の修得
- ② バイオ分野の課題に対しDX実践による価値を明示する力の修得
- ③ DX研究の方向性を企画する力とプレゼンテーション力を修得

内容 (予定)

回 (※1)	内容 (※2)
1～2	ガイダンス、バイオDX概論
3～6	機械学習の基礎と応用
7	働き方を俯瞰してDX社会を見通す
8～11	マテリアルインフォマティクス、AI分子設計、創薬AI、医療AI
12～14	バイオビックデータ、次世代コンピューティング
15	DX実践人材育成事例、総合討論

(※1) 90分×15回 (※2) 座学と実習・実践を組み合わせた内容

講師

バイオ分野での機械学習の応用



渡辺 恵郎 招へい准教授
(大阪大学 パーソル協働研究所)

大量データの解析から 生命の理解、設計・制御へ



齋藤 裕 教授
(北里大学 未来工学部)

機械学習、創薬AI、医療AI



山西 芳裕 教授
(名古屋大学 情報学研究科)

データ&AIを活用した医療/創薬



千崎 心智 理事
(日本アイ・ビー・エム (株)
コンサルティング事業部)

バイオインフォマティクスの事業化



山口 昌雄 CEO
(アメリエフ (株))

【ヘルスケア】千葉大学： ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム



プログラム概要

① 名称

- ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム

② 目的

- エコシステムプラットフォーム構築によって自分らしく最期まで自律・自立できることを支援するケアテクノロジーの開発と社会実装を推進できる人材、ケアテクマスターを育成し、ヘルスケア産業を含めたケアテクノロジー産業全体の成長を実現する

③ 対象者層

- 医療施設管理者 看護師長クラス以上
- 介護施設管理者 副施設長クラス以上
- ケアテクノロジー開発企業 主任クラス以上
- ケアテクノロジー販売企業 主任クラス以上

④ 育成する人物像

- 患者・利用者中心のケアの観点から未来社会を描くことのできる人材
- 専門職連携実践に基づきケアテクノロジーの開発に向けてコ・デザインの展開に参画できる人材
- 実装戦略フレームワークの知識を持ち、ケアテクノロジーの実装戦略の立案と展開に主体的に参画できる人材

申込方法

【調整中※今後掲載(更新)予定】

(関連参考サイト)

- 千葉大学大学院看護学研究院
<https://www.n.chiba-u.jp/>
- 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター
<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- エコシステム構築に向けてユーザーと企業人がともに学ぶ**
 - ケアの観点から未来社会を描き、ケアテクノロジーのユーザー(医療介護従事者)と開発・販売企業人にとって必要な以下の5要素
 - ① 共通言語
 - ② 対話とコンフリクトの解決
 - ③ 専門職連携実践
 - ④ コ・デザイン
 - ⑤ 実装戦略をともに学ぶことで、ユーザーと企業人がつながり、エコシステムプラットフォームを構築できる
- オンラインプラットフォームを活用したリカレント教育プログラム**
 - 医療介護従事者が受講者に含まれることから、所属施設のCOVID-19感染症のクラスター発生時や悪天候等でも、オンラインによる同時双方向での開催へ変更することを可能とする

② アピールポイント

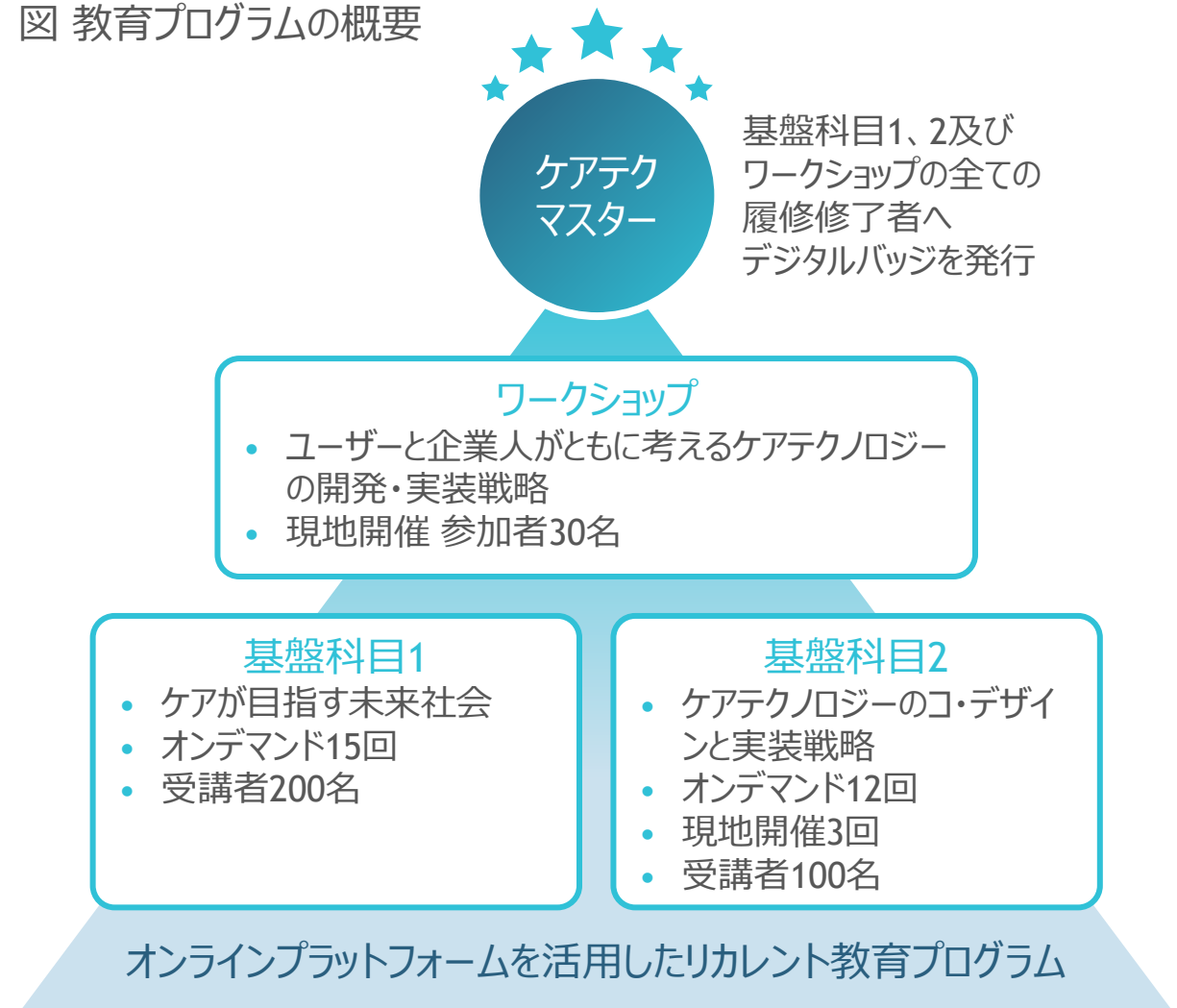
- 修了者にはデジタルバッジ「ケアテクマスター」を発行予定**
 - 全てのプログラム履修修了者へデジタルバッジを発行
 - 保有スキルの可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

【ヘルスケア】千葉大学： ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム

プログラムの目的

- 1 ケアの基本知識と最先端のケアを学び、ケアの観点から未来社会を描ける人材を育成する
- 2 ケアテクノロジーのユーザーである医療介護従事者と開発・販売を担う企業人が、共通言語、対話とコンフリクトの解決、専門職連携実践、コ・デザイン、実装戦略フレームワーク等の最新知識とともに学ぶことを通して、**医療介護現場で利用され続けるケアテクノロジーの開発と実装を推進できる人材「ケアテクマスター」を育成**する
- 3 ユーザーと企業人が参加するケアテクノロジーのコ・デザインと実装戦略をシミュレーションするワークショップによって、所属組織の課題と解決策を明らかにできる人材を育成する
- 4 ケアテクノロジーに関する対話とネットワークの基盤となるエコシステムプラットフォームを構築する

図 教育プログラムの概要





【マーケプロ】早稲田大学: CMO Program

プログラム概要

① 名称

- CMO Program – 企業経営を牽引するマーケティングを学ぶ総合講座

② 目的

- 企業の最高マーケティング責任者(CMO)やマーケティング部門の責任者を対象に、「企業経営を推進するマーケティング」の理論・実践知を提供し、企業の成長と収益性向上に資するマーケティングの実践を指揮する人材を養成すること

③ 対象者層

- 企業のCMOまたは、マーケティング本部長、マーケティング部長等、マーケティング部門の責任者及びそれらの候補者であること

④ 育成する人物像

- マーケティングの理念、理論、実践知を深く理解するとともに、優れたリーダーシップを有し、企業のマーケティングを牽引することができる人材
- 効果的なマーケティングを実行することで、当該企業の収益性向上と成長に貢献できる人材

申込方法

- 右記サイトから申し込み <https://wasedaneo.jp/>

担当連絡先

- 早稲田大学教務部コンティニューイング・エデュケーション推進室
Mail:cmo_program@list.waseda.jp Tel:03-6262-7534

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

● 著名な講師陣

- 日本を代表する企業でマーケティングを指揮・実践している方々、当該テーマに関する学術界/産業界の第一人者の方々等、著名な講師陣から学びます

● 総合的な学び

- 経営者としてのCMOを養成するために必要となる事項を体系的かつ包括的に学びます。基礎的なテーマではなく、企業経営とマーケティングとの関係、戦略立案、収益モデル、顧客理解、リーダーシップと思考法、市場環境の変化等企業経営を牽引するために必要な知識・スキルを総合的に学びます

● 学修成果報告会

- プログラム修了後、受講者は自社で学修成果報告会を実施し、学びを社内に共有することで、他のマーケティングスタッフの学習意欲を高め、組織全体のマーケティング力向上へとつなげる仕組みが特徴です

② アピールポイント

● 修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能



【DXプロ】北海道大学: 社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成

ー ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化 ー

プログラム概要

① 名称

- 社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成
ー ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化 ー

② 目的

- 企業の成長に資するDXプロフェッショナル人材の育成及び輩出

③ 対象者層

- 「建設・インフラ分野※」関連従事者で、デジタルリテラシー、BI、AI等の知識はあるが、抱えている課題に対してどのように活用するか具体的につかめていない方（※地域の現況、ニーズを踏まえ対象分野を絞った学習コンテンツであるが、他分野の方でも受講可）

④ 育成する人物像

- デジタルに関する知識を活用し、最先端のAI等を利用した課題解決により組織の各部門をリードできる人材
- 組織や業界全体のDX化と同時に産業成長に貢献する人材

申込方法

- 受講申込に先立ち、下記「担当連絡先」に記載のメールアドレスへお問合せください

担当連絡先

- 北海道大学 データ駆動型融合研究創発拠点(D-RED)
Mail: drep_Kenshu@dred.hokudai.ac.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- DXによる課題解決力を養う「ケーススタディ型学習」をメインとし、データの収集・管理、分析から戦略についても学ぶ**統合型カリキュラム**
 - 実際の建設・インフラ分野での課題解決におけるDX活用の好事例を学び、最先端のAIを活用しDXがどのように行われているかについて読み解く力を養うことで課題解決のイメージを喚起
 - 建設・インフラ分野におけるデジタルデータの収集・管理について適切な方法や、デジタルデータを活用したインフラ分析から適切なメンテナンスの戦略を立案するためのスキルも獲得可能
- ケーススタディ型学習を含む「セミナー」とオンライン・オンデマンド型の「講義」を組み合わせた学び
 - セミナーを開催し、プレゼンや受講生同士でのディスカッション等により、履修の上で必要かつ重要な内容を的確に把握
 - 一方で、基本的に講義はオンライン・オンデマンド型とし、広大な北海道においても好きな場所・時間で学習ができ、受講生の負担を軽減

② アピールポイント

- ツールを利用するだけの人材からデジタルを活かす人材へ**
 - 単にツールを利用するだけの人材からデジタルを活かすDXプロフェッショナル人材への出発点を明確にしたカリキュラム設計
- プログラムの修了者にはデジタルバッジを発行予定**



【DXプロ】北海道大学: 社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成

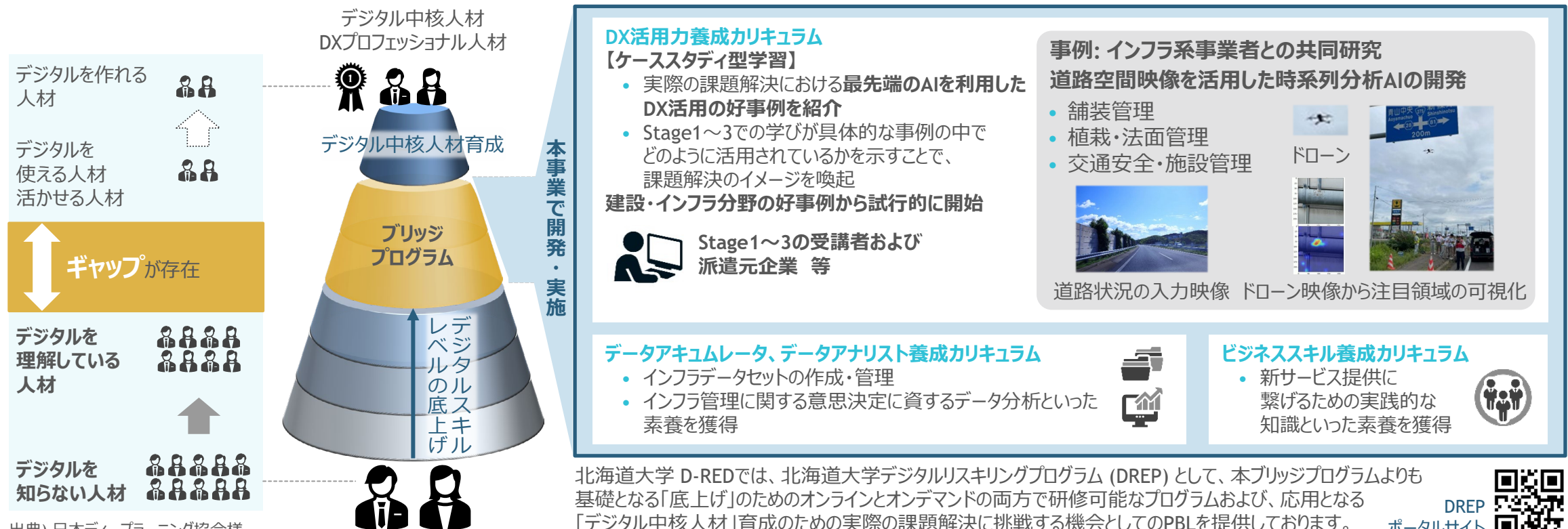
ー ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化 ー

・ 自力で課題の発見・設定およびDXを活用した解決策を発想する能力を身に付ける

従来、ソフトウェアやツールの使い方を学ぶのみでは自力で課題の発見・設定および解決策を発想する能力を身に着けることは困難であった。そのため、好事例をもとに具体的なプロセスについての知見を学ぶことを通じて、**受講生ごとの実情に即して課題を考えることを促すカリキュラムを設計。**

・ デジタルを理解している人材からデジタルを使える人材、活かせる人材へとつなぐ「ブリッジプログラム」

オンデマンドプログラムなどの座学は受講しデジタルを理解しているところまでは到達しているが、そこで立ち止まっている社会人に対し、「ブリッジプログラム」を提供。それにより、上位の課題解決へつながるPBL型学習の受講を促すことでデジタルを使える人材、活かせる人材へと導き、組織や業界全体のDXプロフェッショナル人材の育成と同時に産業成長に貢献。



出典) 日本ディープラーニング協会様
『G検定ご紹介資料』を参考に北海道大学で作成

北海道大学 D-REDでは、北海道大学デジタルリスキングプログラム (DREP) として、本ブリッジプログラムよりも基礎となる「底上げ」のためのオンラインとオンデマンドの両方で研修可能なプログラムおよび、応用となる「デジタル中核人材」育成のための実際の課題解決に挑戦する機会としてのPBLを提供しております。(詳しくは <https://drep.jp/>、もしくは右記QRコードより)

DREP
ポータルサイト



【DXプロ】早稲田大学: スマートエスイーAIトランスフォーメーション

生成AI産学エコシステム

WASEDA University
早稲田大学

プログラム概要

① 名称

- スマートエスイーAIトランスフォーメーション: 生成AI産学エコシステム

② 目的

- 生成AIを学ぶ新規の体系的な学習カリキュラムの開発と実施
- 生成AI技術を活用した学修体験の変革

③ 対象者層

- IoT・AI・ビッグデータの各技術を活用して価値創造を主導したいと考えるエンジニアや専門家等
- 組織やビジネスのDX推進を主導したいと考えるマネージャーや経営者、企画者等

④ 育成する人物像

- 通信・物理、情報処理、アプリケーション、ビジネスの4領域を統合するフルスタック人材
- デジタル領域全体とDXの本質を理解し、新しいビジネスや業務体系のDX推進を主導できる人材

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- <https://www.waseda.jp/inst/smartse/>

担当連絡先

- 早稲田大学 スマートエスイー事務局
- Mail:smartse@list.waseda.jp



カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 領域を超えた総合的アプローチ**
 - 通信・物理、情報処理、アプリケーション、ビジネスの各領域を有機的に繋ぐ総合実践を通じて、新たな価値創造を推進するフルスタックかつビジネス×マインド・技術を扱う人材を育成
- 生成AI最新技術を学べるカリキュラム**
 - 生成AI科目を4領域に体系的・網羅的に設置。さらに、生成AIを用いた新しい学修体験を提供
- 理論と実践による即戦力の育成**
 - 大学教員による理論の講義と実務家教員による演習で構成
 - 修了制作やDXゼミを発展させ、共同研究や特許取得、起業へ繋げることが可能
- 学修の評価による質の担保**
 - 全科目で提出課題、教員による個別にフィードバックを実施
 - 修了制作・DXゼミは審査を行い、合格者に修了を認定する

② アピールポイント

- 学校教育法に基づいた、早稲田大学の履修証明プログラム
- 職業実践力育成プログラム認定、教育訓練給付制度の対象講座
- 修了者にオープンバッジを発行

【DXプロ】早稲田大学: スマートエスイーAIトランスフォーメーション

生成AI産学エコシステム



WASEDA University
早稲田大学

生成AI技術の急速な進化とその社会への影響拡大に対応するため、そして学修体験を変革する次世代の教育モデルを確立するために、以下の3つの施策を実行する。これにより、IoT/AI・DX分野におけるフルスタック人材の育成と持続可能なプログラム運営体制の強化をさらに推進する。

施策1 生成AI技術に対応した教育カリキュラムの変革

- 既存コース体系を維持しつつ、生成AI技術を体系的に学べるカリキュラムへ進化させる
- 生成AIを活用した実践的スキルを習得し、PBLを通じて実課題解決に取り組む
- IoT/AIコースとDXコースのシナジーを高め、技術とビジネスの融合を促進する

施策2 生成AIによる教育手法、学修体験の変革と運営の効率化

- 生成AIを活用した教育手法を導入し、学修体験を変革する
- AIによる講義サポートツールを導入し、受講生の学修効果を高め、講師を支援する
- 運営プロセスの自動化を進め、事務作業を効率化する

施策3 産学連携による持続可能なプログラム体制の構築

- 既存の産学連携体制を基盤とし、企業との協力をさらに強化する
- 企業からの受講生派遣を拡充し、受講生の継続的な確保を目指す
- 補助事業終了後も安定運営が可能な持続的な産学エコシステムを構築する

カリキュラム体系

IoT/AIコース					DXコース				
ビジネス	IoT・AIシステム・ ビジネス入門	IoT・ AIイノベーション	IoT・AIとシステムズ アプローチ	SXビジネスモデル 仮説検証	修了制作	AIビジネスゴール・ 戦略デザイン	SXビジネスモデル 仮説検証	DXビジネス プロジェクトデザイン	DXゼミ
アプリケーション	生成AI活用開発 演習	セキュリティ・ プライバシー・法令	アーキテクチャ	品質 エンジニアリング		IT経営			
		クラウドサービス・ 分散システム	組込み・リアル タイムシステム						
情報 処理	AIエージェント開発 演習	機械学習	深層学習	ビッグデータマネジメント・ アナリティクス		スマートIoT システム 実習	AIセキュリティ・ リスクマネジメント	RPA	
通信・ 物理	クラウド基盤構築 演習	無線通信・IoT通信・ センサネットワーク	センサ	推論・知識処理・ 自然言語処理	ノーコード				
				サステナビリティ・ DXと生成AI	データ科学・ビジネス インテリジェンス		AI基礎		
				：生成AI新規開講科目					

■ : 生成AI新規開講科目

【GXプロ】北海道大学: グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

プログラム概要

① 名称

- グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築
-GX未来社会デザイン実践プログラム(基礎編・実践編)-

② 目的

本プログラムは、GXを環境と経済の好循環を生み出す構造転換の起点と捉え、自然との共生を重視する視点から、北海道大学の多様な研究資源と広大なフィールドを活用し、地域循環、自然資本、脱炭素といった課題に実践的に取り組む人材の育成を目的とする。

- GXの実現に向けて、構想力と実行力を備えた人材の育成
- 基礎編では、北海道大学の研究者によるGX関連の多様な知見や視点に触れ、事業や制度の構想に活かせる発想を得る
- 実践編では、参加者自身の課題意識をもとに、研究者との対話を通じてアイデアを磨き、プロトタイピングやフィールドでの試行を通じてGXの社会実装を構想する

③ 対象者層

- GX推進に関心を持ち、実務経験・社会課題解決への意欲を有する社会人
(基礎編は入門者～中堅層、実践編は実務応用・プロジェクト志向者を対象)

④ 育成する人物像

- GXの本質や関連する技術・社会課題に対する理解を持ち、研究者との対話を通じて未来社会のあり方を構想し、自らの現場や領域においてGXの実装を推進するための発想力・設計力・行動力を備えた人材

申込方法

- 調整中※今後掲載(更新)予定

担当連絡先

- 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部
Mail: Reh-office@grad.hokudai.ac.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

ステップアップ型プログラム構成

基礎編(GXの知識習得)から実践編(課題解決プロジェクト)へと段階的に学びを深め、政策・技術・事業の三位一体でGX人材を育成。

- 基礎編(R7年8月～12月(予定)/全8回・平日夜間:ハイブリッド開催)**
 - GX政策・技術動向、企業事例を通じたGXの体系的理解
 - CO₂フリープロセス、グリーンバイオ、水素・蓄電池、スマートグリッド等多様なテーマをカバー
 - 北海道大学の第一線の研究者・企業担当者とのネットワーキングの機会あり(初回対面開催を含む)
- 実践編(R8年1月～2月(予定)/集中合宿・プロジェクト演習)**
 - 基礎編で習得した知識を基に、課題探索～プロトタイプ開発までの実践型プロジェクト
 - リスタートアップの手法を取り入れ、社会課題をビジネスアイデアに変換するプロセスを体験
 - 北海道大学の研究フィールド(北方生物圏フィールド科学センター等)にて合宿形式で実施
 - 教員・企業・VCとの対話を通じた支援により、事業化・社会実装への発展を視野に展開。

② アピールポイント

- 研究者の知と出会う**
 - GXに関する多様な分野の研究者から、技術・社会課題の本質や新たな視点を得られる
- 現場課題を起点に構想**
 - 自身の業務や地域の課題から出発し、実現可能なGXのアイデアを形にできる
- 社会実装を模擬体験**
 - プロトタイピングやフィールド実践を通じて、GXの実装プロセスを体感できる
- 修了証の発行**
 - プログラム修了者には修了証を発行し、履修実績を可視化
- 履修証明プログラムへの接続**

【GXプロ】立命館大学: GXプロフェッショナル + Rプログラム

プログラム概要

① 名称

- GXプロフェッショナル + Rプログラム

② 目的

- GX (特に脱炭素分野/バイオ炭)を推進する「社会実装人材」の育成

③ 対象者層

- 企業の多様なニーズを踏まえ、GXによる事業創造に直接携わる事業立案者、GXにより自社の変革を推進する経営者層等3層を想定

④ 育成する人物像

- GXに関する総合的な知識と実践的なスキルを習得し、GXを業務や経営に「実装」できる人材
- 具体的な脱炭素技術や制度を学び、実務に取り入れられる人材
- 次期経営層(役員層)として、GX×経営に関連した知識を網羅的に習得した上で、自社経営で実践できる人材

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み(2025年9月公開予定)
- 「学びのプラットフォームMIRAI」
<https://www.ritsumei.ac.jp/open-univ/>

担当連絡先

- 立命館大学 社会連携課
- Mail:acr02@st.ritsumei.ac.jp



カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- **企業ニーズを踏まえた3層でのプログラム**
 - GXの基礎知識習得から、事業立案者、経営者それぞれに対応し3つのプログラムを設置。GXに関する総合的な知識と実践的なスキル習得を通じて、GXを業務や経営に「実装」できる人材を育成
- **立命館だからこそできる、GXに資する「社会実装人材の育成」**
 - 立命館の有する産学連携コンソーシアム「日本バイオ炭コンソーシアム」とリカレント教育拠点「立命館アカデミックセンター」、そして産学連携・スタートアップの推進拠点「立命館起業・事業化推進室(RIMIX)」が有機的に連携。GX研究者によるアカデミックな講義と実務者による実践知をマッチさせ、仕事で結果を出せるプログラムに。
- **関西を元気に！ グラングリーン大阪(梅田)本学拠点で開講！**
 - 「GX-BCR」「GX-経営」は、立命館ROOT(グラングリーン大阪)で開講。本講座とは別に「日本バイオ炭コンソーシアム」による勉強会等企画も予定。関西から、GXを盛り上げよう！

② アピールポイント

- **修了者にはデジタルバッジを発行予定**
 - 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

【GXプロ】立命館大学: GXプロフェッショナル + Rプログラム

なぜ今、GX人材なのか? - GXはもはや "選択肢" ではない。

GX (グリーン・トランスフォーメーション) は、世界的に脱炭素をめぐる競争が激化する中、企業の持続的成長に不可欠な要素となっている。EUのグリーンディール、米国のインフレ抑制法等、各国は巨額のGX投資を進めており、日本政府も2023年に「GX基本方針」を閣議決定し、官民150兆円のGX投資を表明した。先進企業の一例として、(株)カナデビアはバイオ炭や地域連携によるGX事業を展開している。こうした動向を受け、GXを推進できる人材は、**企業の競争力を左右する戦略人材**として注目されている。

特徴



目的・職位に応じて
選べる
3つのプログラム

受講生の業務への活用、企業内実装を意識した内容・授業手法であり、受講生の目的等に応じて自由に組み合わせて受講できる



先進企業や研究者が
集う
GXネットワーク

GXに関心のある企業・団体との交流会を開催し、ネットワークを構築する



個人・企業の成長に
つながる
研修成果の見える化

研修成果を見える化し、学修者の意欲向上や企業成長につなげる。また企業が人事で活用できるような「デジタルバッジ」を発行していく

学びを支える立命館の強み



国内最先端・最大級の「バイオ炭研究」の拠点



日本バイオ炭コンソーシアム
GXに関心を持つ110以上の企業・団体が加盟しており、幅広いネットワークをもつ。



多彩なリカレント教育プログラムの提供



立命館アカデミックセンター (ACR)
2万人の社会人に学びを提供。
GXからの派生的な学びにも対応。



GX新規事業創造への強力なバックアップ



立命館起業・事業化推進室 (RIMIX)
アントレプレナーの育成や事業化をサポートする
豊富なノウハウを持つ。

【GXプロ】立命館大学: GXプロフェッショナル + Rプログラム

GX エッセンス

9-10月/オンデマンド

どなたでも

GXの基礎知識を身につけ業務に活かす土台を形成

<講座例> 全10回/10月以降は見逃し配信あり

- ・ 気候変動のメカニズム
- ・ 日本のGX関連制度
- ・ カーボンニュートラル (CN) に向けた潮流
- ・ CNと炭素回収貯留
- ・ CNと金融・流通

<主な講師>



環境政策
立命館大学
経済学部教授
島田幸司



気候変動
立命館先進研究
アカデミーフェロー
長谷川知子

到達度検証

11-2月~/対面

研修成果の定着・拡張

研修による個人の学びを社内外に広める仕組みづくり

<講座例>

- ・ 「カークパトリックモデル」に準拠する受講生自身の学習と成長評価
- ・ 「バランス・スコアカード (BSC)」モデルに準拠する組織、特に財務・経営組織の評価
- ・ 「企業内GXセンター」(仮称) の設置の支援

<主な講師>



学修目標到達
検証
立命館大学
総合心理学部教授
高橋 潔

GX-BCR

11-2月/対面

実務担当者向け

GX/Biocharを使った新事業・提案ができる人材を育成

<講座例> 全10回
うち4回は ケーススタディと演習

- ・ GXを通じた環境価値とエコシステム
- ・ GXと政策及び炭素クレジット
- ・ ワークショップ (GXの実践)

GX 経営

11-2月/対面

管理職・経営者向け

GXを経営戦略に統合できる判断力・構想力を育成

<講座例> 全10回
うち6回は ケーススタディと演習

- ・ GXと経営戦略
- ・ GXと政策、市場
- ・ GXと環境経営
- ・ GXとDX
- ・ ワークショップ (GXの経営戦略)

<主な講師>



GX・経営
立命館大学
経営学部教授
依田 祐一



バイオ炭
立命館大学OIC
総合研究機構教授
柴田 晃

ニーズに応じた3層のプログラム



新任社員学生

- ・ GX推進部署に配属された! 基礎からGXを学びたい!
- ・ 説得力のある営業をするためにGXの理論的背景を学びたい!
- ・ 将来、GX関連企業に就職したい!

GX
エッセンス

技術担当者

- ・ BCRを活用し、GXに貢献する新規商品・GXを支えるサービスを創りたい!
- ・ GX推進企業とのネットワークを広げ、新規事業を目指したい!

GX
BCR

マネジメント層

- ・ 次期経営層やリーダーとしてGX経営の知識を基礎から網羅的に学びたい!
- ・ 経営的視点から自社のトランスフォーメーションを推進したい!

GX
エッセンス

GX経営

Root
Ritsumeikan
Osaka-umekita
Open innovation
Terrace

グラングリーン大阪
本学拠点で開講
関西企業にGX人材教育を
提供

【SCMプロ】流通経済大学: SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

② 目的

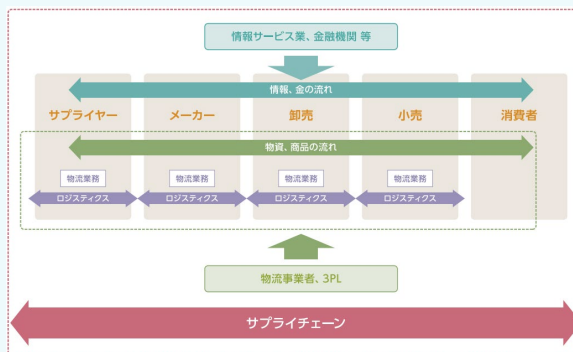
- SC(サプライチェーン)全体を俯瞰できるプロフェッショナル人材の育成

③ 対象者層

- メーカー、卸売、小売、物流事業者、3PLな物流関連業種を中心に、情報サービス、金融系等広範な業種のSCM部門の管理職層

④ 育成する人物像

- 自社範囲の物資、商品の管理だけでなく、自社に關係する製配販の垂直の流れ、さらには同業他社との連携等広範囲に展開するSC全体を俯瞰、管理するために必要な知識と考え方を持つ人材
- SCMに関する知見、関連するロジスティクスの基礎・データサイエンスの基礎等の知識の向上等により、SC全体をマネジメントできる人材



申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み(準備中)
- <https://recurrent.rku.ac.jp/>

担当連絡先

- 流通経済大学 リカレント教育センター
Mail: recurrent@rku.ac.jp Tel: 047-709-1896

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

● 座学と実習・実践を組み合わせたプログラム

- 座学と企業事例、企業見学、ケースメソッド、SCM関連データを用いたデータサイエンスプログラム等、実習を組み合わせた実践的なプログラムを「基幹講義」「選択講義」「実践研修」で構成
- 「基幹講義」では、SCMの知識を習得すると同時に、データサイエンスを基礎から学び、SCM運営に数値利用する学習を実施
- 「選択講義」では、不足している知識(物流・ロジスティクス・考え方・情報整理等)を学習
- 「実践研修」では、ケースメソッド、実務家による企業事例報告、ゲーム理論による学習、現場見学会を実施

● 産学からの講師陣

- 本学関係者による理論の側面と企業関係者による実務の側面での講師



② アピールポイント

● 修了者にはデジタルバッジを発行予定

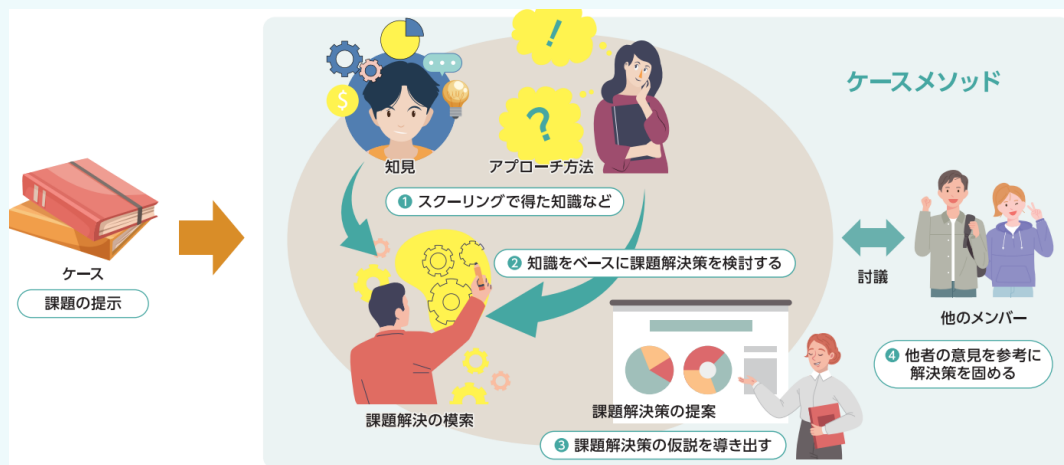
- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

【SCMプロ】流通経済大学: SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

特徴的なプログラム

ケースメソッドとは

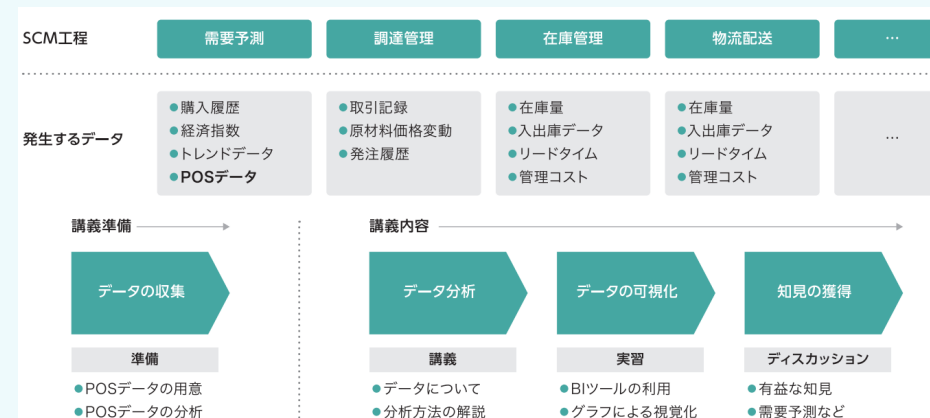
- 実際の出来事が書かれた「ケース」を討議する形式で行う。
- ケースにより導き出せる課題に対応した設問に対して、個人もしくはグループが当事者としてどの課題解決策を意思決定し、ほかの受講者と協議の上で最終的な意思決定の方向性を模索する。本講座で得た知見やアプローチ方法等を駆使して課題解決の方向性を導き出すことを訓練する。



- ケースメソッドには決まった答え(解決策)はなく、ここで導き出した解決策をベースに討議等を実施。

データサイエンスプログラムとは

- SCMを効果的に最適化するには、より正確な需要の予測、安定かつ低コストな調達先の確保、適切な在庫管理、効果的な輸配送等の複合的な改善が重要。
- そのためには各工程で生ずるデータを集約し、データ分析をおこない有益な知見や情報を得る必要がある。そのための手法にデータサイエンスがあり、1.データの収集と整形、2.統計解析やAIによるデータ分析、3.特徴の可視化、4.有益な知見の獲得の手順で行われる。
- この講義では、SCMの需要予測に焦点を当て、POSデータを使い、データ分析(講義形式)、特徴の可視化(実習形式)、知見の獲得(ディスカッション)を行い、DXを進めるうえでのデータの重要性を再確認する。



【SCMプロ】 東京大学: SCMリカレント教育プログラム

プログラム概要

① 名称

- 複雑化する事業環境に対応できるSCM人材の育成

② 目的

- 次世代半導体産業を牽引する高度専門人材の育成

③ 対象者層

- 大企業のSCM部門の部課長クラス、物流企業・荷主企業の経営・マネージャー層 (係長クラス以上)

④ 育成する人物像

- サプライチェーン全体を俯瞰し、バランスよく判断できる人材
- 地政学リスク、物流2024年問題、デジタル化、脱炭素化等の複雑な事業環境に対応し、データ駆動型の意思決定ができる人材
- 部門横断的な視点でSCM戦略を立案・実行し、組織全体の最適化をリードできる人材
- AI・IoT・ビッグデータ分析等の最新技術をSCMに活用し、サステナブルSCMの設計によりESG評価向上に貢献できる人

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- <https://ti.t.u-tokyo.ac.jp/programs/scm-re>



担当連絡先

- 東京大学 工学系研究科 トランスポートイノベーション研究センター
Mail:scm-re@tic.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-6990

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

● 理論と実務を一体で捉える統合型カリキュラム

- SCMの基礎理論から応用、最新技術・市場動向までを網羅し、演習・ケーススタディを交えながら戦略視点での理解を促進
- 学術的裏付けと産業界のニーズを融合し、即戦力人材の育成を目的としたカリキュラム設計

● オンラインと対面のハイブリット学習

- 基本的には講義はオンラインとし、主な受講生として想定している、本業で忙しい次世代リーダー層の負担は軽減しつつ、
- 一方で、演習や実地研修は対面とし、履修の上で必要な重要な内容は的確に押さえる構成

② アピールポイント

● 産学連携による実践的プログラム

- 東大教員と実務家講師が約半々で担当し、日本を代表とする企業のケーススタディを通じて実践的な知見を習得
- PBL型アドバンスト演習では、企業の実際の課題をテーマに大学院生と協働で3ヶ月程度の共同研究活動を実施

● 修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

【経営人材向け】早稲田大学: The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)



WASEDA University
早稲田大学

プログラム概要

① 名称

The Global Leader Accelerator Programme (GLAP)

- 早稲田大学ビジネススクール x オックスフォード大学サイドビジネススクール共同開発

② 目的

- 予測困難な社会情勢下で日本企業が持続的成長を遂げるために不可欠な次世代リーダーの育成

③ 対象者層

- 日本を代表する各産業の主要企業から選抜された次世代リーダー候補

④ 育成する人物像

- 「グローバルな視点と将来構想力」、「変化への対応と変革推進力」、「多様な人材を率いるリーダーシップ」の3つを涵養し、グローバルマインドセットを兼ね備えた実践的経営人材

申込方法

- 調整中※今後下記HP掲載予定
<https://www.waseda.jp/fcom/wbf/education/executive>

担当連絡先

- 早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター wibf@list.waseda.jp
- 早稲田大学アカデミックソリューション (株) 社会連携企画部
エグゼクティブ研修支援チーム Mail: exe-edu@w-as.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

事前協議・課題設定・集中研修・成果共有の4ステップで構成する
次世代リーダー育成プログラム

- 開始前: 派遣元企業と事前に、育成したいリーダー像や必要なマインドセット・スキルを協議し、プログラム内容に反映する。
- プレセッション: オンラインセッションで到達目標の明確化、リーダーシップアセスメントの実施、自社課題・個人課題の設定を行う。
- 研修期間: 5日間の宿泊型研修にて、集中的に講義と演習 (アクションラーニング) を実施。経営知見を深め、課題を多様な視点から議論し、最終日に発表を行う。
- 終了後: 研修成果を社内で発表し、学びを共有する。

② アピールポイント

- 日本企業の経営に深い知見とネットワークを持つ早稲田ビジネススクールと世界トップクラスのオックスフォード大学サイドビジネススクールのグローバルな視点を融合した国際的な次世代リーダー育成プログラムを日本に居ながらにして受講できる。
- 持続的ラーニングコミュニティ基盤を構築し、プログラム修了後も相互に学びあい、成長しあえるネットワークを形成する。
- 修了者にはデジタルバッジを発行予定。
保有スキルの可視化とスキル証明ツールとしての活用が可能

【経営人材向け】早稲田大学: The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)



WASEDA University
早稲田大学

プログラム開発・実施について

期待される学修効果

本プログラムでは、変化し続ける社会経済情勢に対応し、企業が持続的な成長を遂げるために不可欠な3つの力を育成する。「**グローバルな視点と将来構想力**」、「**変化への対応と変革推進力**」、そして「**多様な人材を率いるリーダーシップ**」である。これらの能力を総合的に高めることで、受講者は自社を主語に未来を構想し、変化をチャンスに変え、組織を成功に導く原動力となることを目指す。本プログラムを通して、次世代リーダーとしての成長を力強く支援する

企業環境を俯瞰し、戦略・パーパスを設計する力

グローバルな視点と将来構想力	変化への対応と変革推進力	多様な人材を率いるリーダーシップ
グローバルな社会・経済・産業について俯瞰して、自社を主語にして将来を構想できる力 - 世界の政治経済ドライバー理解と構想 - サステナビリティ潮流理解と構想 - デジタル技術トレンド理解と構想	これまでになく変化が速く大きく起こっている時代において、企業が持続的な成長を実現できるように変革していける力 - 企業ビジョン構築力 - 企業戦略・事業戦略・機能戦略構築力 - トランスフォーメーション設計・実行力 - トランスフォーメーション問題解決力	多様なステークホルダー、様々な人材、複雑な組織を効果的かつ効率的に率いていけるリーダーシップ力 - メッセージ発信力 - エンゲージメント力 - ロールモデル力・スポンサー - メンター力



- 毎年本プログラムに継続的に人材を送り込むことで、組織内に新たな視点やスキルを持った次世代経営人材が増え、企業の重要な資産となる
- これらの人材は、企業全体の成長を促進する原動力となり、企業の競争力強化、持続的な成長に大きく貢献する

【経営人材向け】東京女子大学: 自信をもって、ビジネスの中心に

プログラム概要

① 名称

- 東女リカレント: 自信をもって、ビジネスの中心に
事業創造×HRM×リベラルアーツで育成する高度専門人材 (事業創造)

② 目的

- 昇進や新規事業に挑む女性に必要な戦略・ビジネススキルを養成する
- 本プログラムは、複数の企業と共同で開発した実践的な内容である

③ 対象者層

- 主に課長級・係長級の女性社会人を対象とし、昇進や新規事業への挑戦を支援する
- EY新日本有限責任監査法人、eiicon、国分グループ本社等の派遣社員と共に、実務に即した学びを行う

④ 育成する人物像

- 企業の成長を支える事業創造人材として活躍しうる、課長級・係長級の女性を育成する
- 事業戦略・人材マネジメント・リベラルアーツの素養と視座を涵養する

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから問い合わせ
- <https://twcu-empowerment.jp/contact/>

担当連絡先

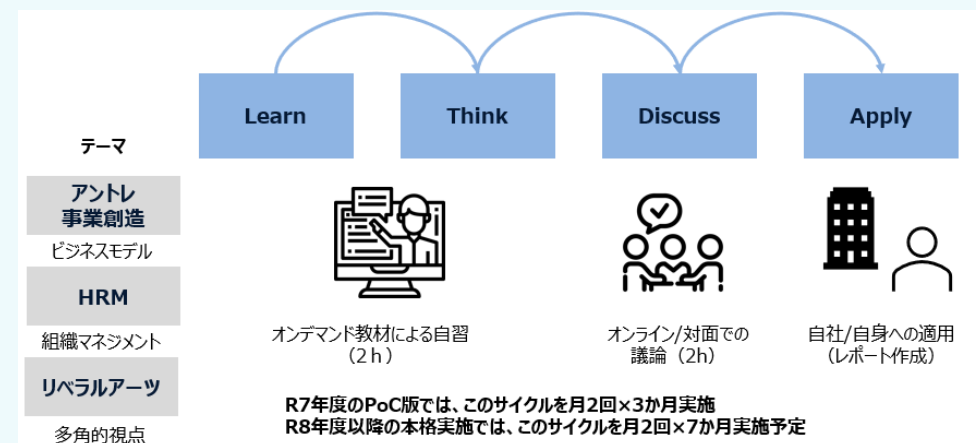
- 東京女子大学 東女リカレント事務局
(エンパワーメント・センター内)
- ec-2@list.twcu.ac.jp



カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 事業創造・HRM・リベラルアーツを統合した実践的カリキュラムを提供
- プログラムは、オンデマンド動画・ディスカッション・実務適用を組み合わせ、以下のような反転学習形式で、社会人が効率的に学べる設計



② アピールポイント

- 本プログラムは、事業創造、人材育成、働きがいの向上、ダイバーシティ経営等において実績を有する企業と連携して開発
- 現場の実務感覚と理論を融合させた内容により、実践的かつ汎用性の高いスキル習得が可能
- 修了者には、学びの成果を証明するデジタルバッジを発行予定

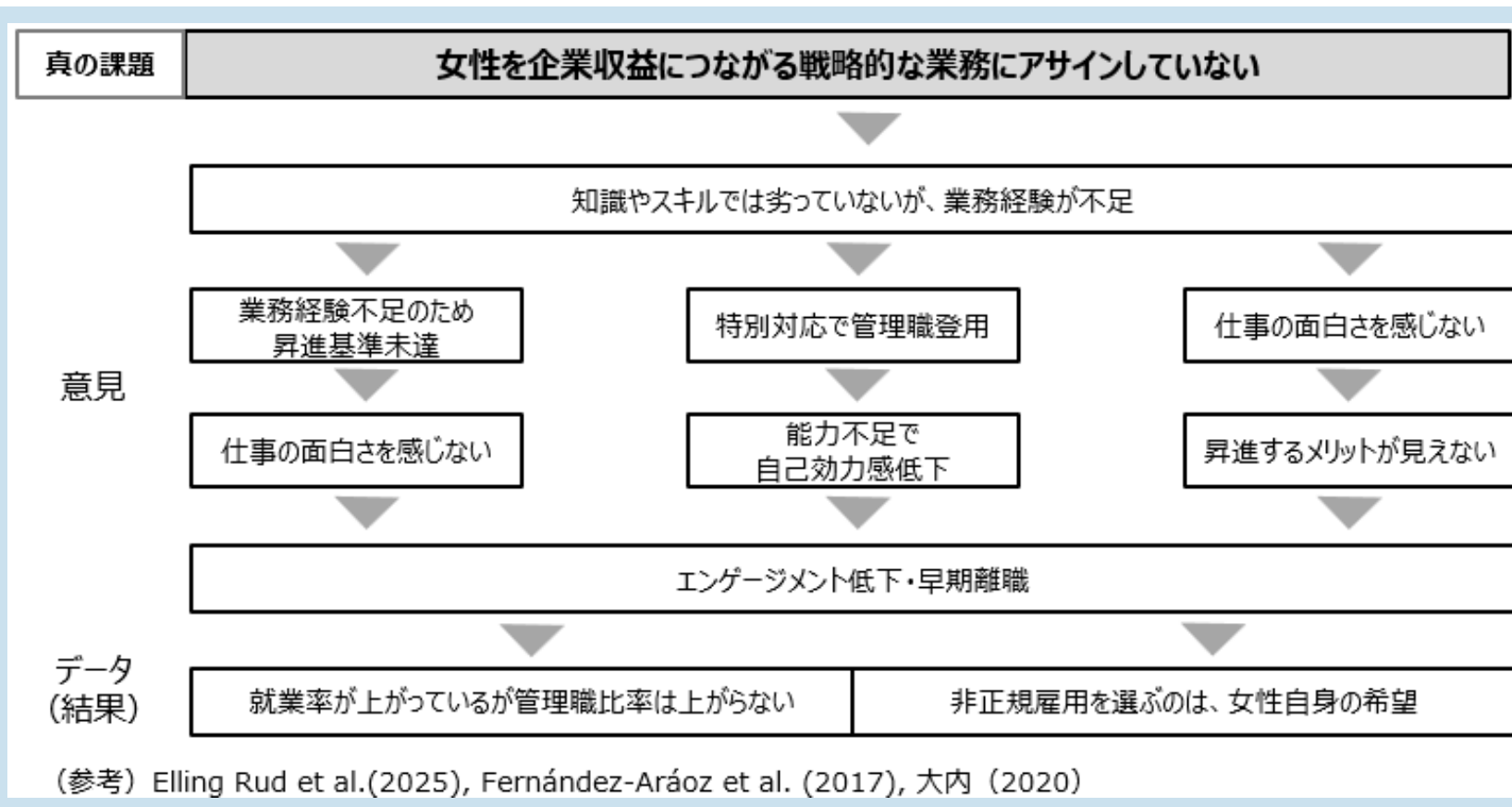
【経営人材向け】東京女子大学: 自信をもって、ビジネスの中心に

女性が企業の中核業務に参画することを阻む構造的要因とは

ヒアリングで出た意見やデータ結果と、
学術的知見が示す真の課題

「女性はスキルや意欲が足りないから
昇進しない」と誤解されがちだが、
真の課題は「経営に直結する業務
(利益責任・意思決定・
新規事業等)」にアサインされない
ことにある

東女リカレントでは、このギャップを
埋め、昇進や社内公募等新たな
挑戦に自信を持って臨めるよう、
戦略・事業創造・人材マネジメント
の力を体系的に養成する



【経営人材向け】東京女子大学: 自信をもって、ビジネスの中心に

東京女子大学の力を結集した、全学連携のリカレント教育

本プログラムは、学長をはじめとする全学的な体制のもと、経営学・哲学・心理学等の分野横断的な知見を有するメンバーにより、事業創造・人的資源管理・リーダーシップ・リベラルアーツを融合した教育を実施する

東京女子大学
学長 森本 あんり

【哲学】
リーダーシップなど

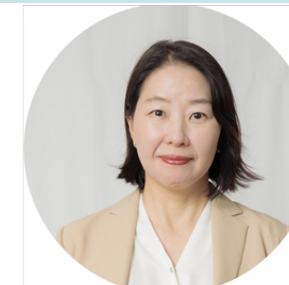
国際基督教大学教養学部人文科学科卒。
東京神学大学大学院、プリンストン神学大学
院組織神学博士課程修了 (Ph.D.)。専門
は、アメリカ思想史、哲学・倫理学、宗教学。
著書多数。2022年より現職。



経済経営学科
准教授 小西 由樹子
エンパワメントセンター長

【経営学】
事業創造・HRM

大阪大学経済学部卒。第一勧業銀行（現みずほ銀行）を経て、早稲田大学で経営管理修士（MBA）を取得。専門は人的資源管理・起業家教育。早稲田大学招聘研究員。前任校ではJST事業（EDGE-NEXT、START）で起業家教育・大学発スタートアップ支援を担当。



経済経営学科
特別客員教授 内田 和成

東京大学工学部卒業後、日本航空入社。
在職中に慶應義塾大学大学院経営管理研
究科修了（MBA）。その後、ボストン・コン
サルティング・グループ（BCG）入社。同社のパ
ートナー、シニア・ヴァイス・プレジデントを経て、
2000年から2004年までBCG 日本代表を
務める。2006年度には「世界の有力コン
サルタント、トップ25人」に選出。
2006年早稲田大学教授に就任。2022年
早稲田大学退任。2023年度より現職。



【経営学】
事業創造
リーダーシップなど

経済経営学科
教授 松嶋 一成

【経営学】
イノベーション、製品
開発、戦略など

一橋大学商学部卒。同大学院で博士（商学）を取得。専門は、イノベーション、製品開発、組織。



【経営人材向け】一橋大学: 社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

② 目的

- 企業のデジタルトランスフォーメーションを主導できる人材の育成

③ 対象者層

- 30代～40代のミドルクラス (部課長級) のビジネスパーソン

④ 育成する人物像

- データサイエンスの基礎的概念を経営視点から理解するとともに、こうした知識を事業戦略や組織改革に結び付ける実践的応用力を兼ね備え、企業のデジタルトランスフォーメーションを主導できるミドルマネジメント層の人材
- 生成AIによる分析機能が急速に発展する中、データサイエンスやデジタルイノベーションの本質を理解し、質の高い仮説構築能力を身に着けた上で、自社の文脈に合わせてデータサイエンスを活用できる人材

申込方法

- 調整中

担当連絡先

- 一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科
<https://www.sds.hit-u.ac.jp/contact/>

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

● 理論と実践の統合を図るカリキュラム

- プログラムは基礎・応用・実践の三段階で構成
- 基礎段階ではデータサイエンスの概念を経営視点から理解し、応用段階では生成AI活用や可視化による意思決定プロセスを習得
- 実践段階では業界別事例と実データを用いた演習を通じて自社のデータ活用計画を策定。実際のビジネス課題に基づくケーススタディにより実践的応用能力を養成

● オンラインと対面のハイブリッド学習

- 社会人が効率的に学修できるよう、オンライン講義と対面ワークショップを組み合わせた構成
- 対面クラスは短期間の集中開催や夜間・週末の開講を想定

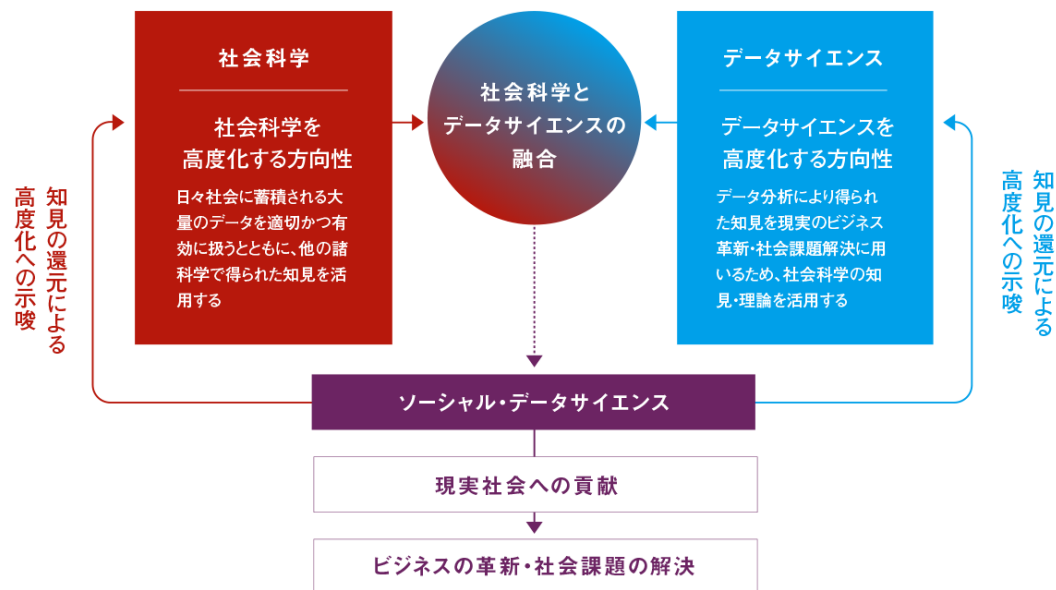
② アピールポイント

● 受講者の所属先企業とも連携したプログラム展開

- 受講者の学習目標の明確化、企業において必要なスキル要件、プログラムで取り上げてほしいテーマ等について企業側の担当者と緊密にコミュニケーション
- 企業内におけるデジタル人材の活用に向けて、企業の人事担当者向けの研修を企画予定

【経営人材向け】一橋大学: 社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

- 本プログラムの中核を担うソーシャル・データサイエンス学部・研究科は本学として72年ぶりの新学部として2023年度に設置
- 社会科学とデータサイエンスの融合により新たな学術領域を開拓



SOCIAL DATA SCIENCE

ソーシャル・データサイエンス学部・研究科

社会科学と
データサイエンスの
「融合」による
現代社会の課題解決

近年の社会・自然環境の大幅な変化により、世界中で様々な課題が新たに発生しており、これらの課題の状況は刻一刻と変化を続けています。急速かつ複雑に変化する現代社会の課題を解決するためには、適切な課題を発見・定義し、必要なデータを収集・分析して、そこから得られた示唆を社会実装することが必要です。そのため、本学部・研究科では、「ソーシャル・データサイエンス」の教育研究を推進します。

教員と研究テーマ

〈社会科学分野〉

教員名	研究テーマ
七丈 直弘	科学技術政策、計算材料科学、技術経営論
寺田 麻佑	先端技術と法、行政法、情報法
檜山 敦	人間拡張工学、バーチャルリアリティ、ジェロンテクノロジー
ウ・ユジン	政治学、国際関係論
永山 晋	経営学、組織論、創造性、ウェルビーイング
坂野 遼平	情報ネットワーク、分散システム、IoTシステム

〈統計学分野〉

教員名	研究テーマ
今井 晋	労働経済学、産業組織論、応用計量経済学
清水 千弘	指数理論、応用計量経済学、多変量解析
渡部 敏明	計量ファイナンス、マクロ計量経済学、ベイズ計量経済学
楠松 良公	統計学、高次元データ分析、時系列分析
加藤 諒	マーケティング・サイエンス、ベイズ統計、欠測データ解析
城田 慎一郎	ベイズ統計、空間/時空間統計、計算統計

〈情報・AI分野〉

教員名	研究テーマ
小町 守	計算言語学、自然言語処理、人工知能
鈴木 真介	神経経済学、計算論的神経科学、計算論的精神医学
櫻 惇志	情報検索、自然言語処理、対話システム
福田 玄明	認知科学、視覚心理学、認知神経科学
本武 陽一	データ駆動科学、解釈可能AI、機械学習
谷田川 達也	コンピュータ・グラフィクス、三次元形状処理、画像情報処理



Social
Data
Science

【経営人材向け】事業構想大学院大学：地域構想力育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 地域構想力育成プログラム

② 目的

- 内需型企業や地域企業を対象とした、既存事業の変革を促すための能力を獲得することを目的としたプログラム

③ 対象者層

- 内需型企業や地域企業に所属する若手リーダー層他

④ 育成する人物像

- 既存事業の変革を促す以下の能力を獲得した人材
 1. 地域資源の戦略的再評価能力
 2. VUCA対応型課題解決力
 3. 産官学連携デザイン力
 4. データ駆動型意思決定能力
 5. 次世代リーダーシップ構築力

上記能力を有した事業・企業・地域の変革を促す人材

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- <https://mpd-program.jp/local2025/>

担当連絡先

- 事業構想大学院大学 仙台
- sendai@mpd.ac.jp



カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

・東北にある様々な企業・行政と連携した人材育成プログラム

- 座学で受講できる地域構想力の基礎講座が10コマ。東北にある5つの企業・行政から生の企業・地域課題の提示があり、課題解決に向けたアイデアを構築しグループで提案する実践講座。基礎・実践を踏まえた受講者個人が発表する変革アイデア発表会の3部構成。座学だけではない、フィールドワーク等の実践も盛り込まれたプログラム。

・「基礎」「基礎・実践」と2つのコースを設定

- オンライン・オフライン（仙台校）で受講できる基礎講座のみの受講枠（150人）を用意、概論・地域イノベーション・企業DX・公民連携・マーケティングという地域構想力・事業変革に必要な知識を獲得できる。また、基礎・実践を組み合わせた枠（50人）も用意、受講者が自ら事業変革のために、一歩踏み出す機会もプログラムの中で提供。

② アピールポイント

・修了者にはデジタルバッジを発行予定

- デジタルバッジによるスキルの可視化、修士課程等への接続も予定。

【経営人材向け】武蔵野美術大学: Value Creation Program for Leadership

プログラム概要

① 名称

- Value Creation Program for Leadership

② 目的

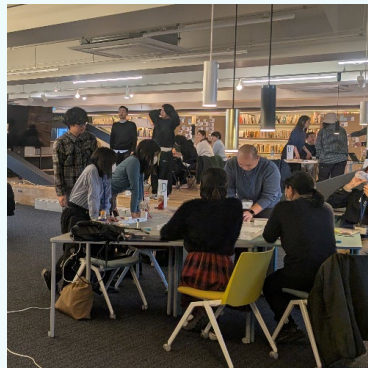
- 複雑な課題を発見、設定する
デザイン経営/高度デザイン人材育成

③ 対象者層

- 企業経営層、人材開発担当役員、
研究所所長、新規事業担当役員等

④ 育成する人物像

- アート思考を基盤としたデザイン経営、高度デザイン人材育成の重要性を認識し、社内で積極的に活用する制度を構築する人材
- 複雑な社会課題を発見、設定するスキルを持ち、複数企業により議論できる体制構築に貢献できる人材
- 創造的思考力の基礎となる、創造的なマインドセット、視点、発想力、観察力、批判力を総合的に身につけた人材



申込方法

- Value Creation Program webサイトにて詳細・要項等を公開
<https://vcp.musabi.ac.jp/>

担当連絡先

- ichigaya_campus@musabi.ac.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

・「創造的思考力」によるリーダーシップ教育

- アート思考とビジネスに関する講義に加え、創造的思考力の基礎となる、創造的なマインドセット、視点、発想力、観察力、批判力を総合的に身につけるワークショップを実践
- 美術大学教育の特徴である【講評】を通じて、主観の交差、新たな視点が生まれる場の創出
- プロジェクトベースドラッシングに先駆けて、アンラーニング(既存の価値観からの脱却)の実践
- ブランド力とイノベーション力(企業競争力)向上のためのデザイン経営人材に必要な基礎力を涵養

② アピールポイント

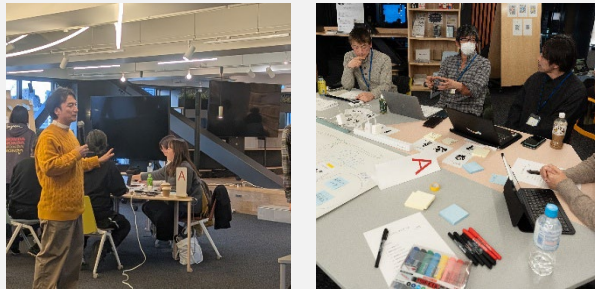
- ・アート・デザイン教育の専門家・研究者を中心とした実践的な講師陣
- ・美術大学の100年にわたる造形教育の蓄積を活かし、社会イノベーションに貢献できる人材を育成
- ・利便性の良い環境を提供
 - アクセスの良い市ヶ谷キャンパスを拠点として、夜間開講やオンラインシステムを提供し、参加者の利便性を考慮した環境を整備
- ・修了者にはデジタルバッジを発行予定
 - 獲得スキルの社内外への可視化が可能で、リーダーシップの証明や企業としての先進性や教育への投資姿勢のアピールをすることが可能

【経営人材向け】武蔵野美術大学: Value Creation Program for Leadership

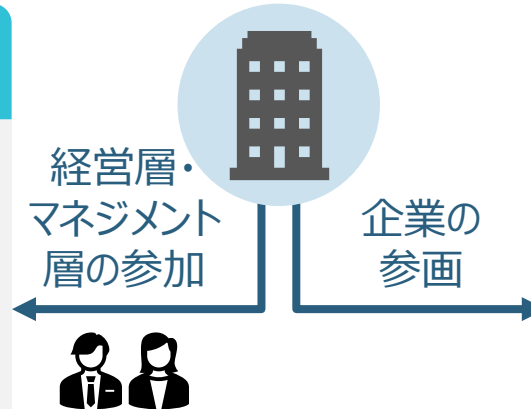
① デザイン経営/高度デザイン 人材育成プログラム

VCBP FOR BIZ
for Leadership

複雑な課題を発見、設定するデザイン経営/
高度デザイン人材育成

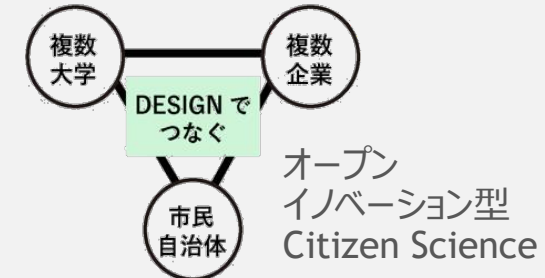


- 2025年度に実施予定
- プログラム協力企業への打診の他、公募により参加者を募集予定



② 社会課題探究コミッティーの構築

複数企業で取り
組むべき社会
課題を議論



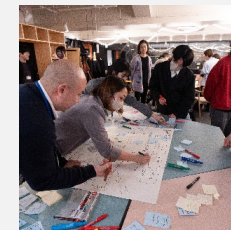
1社では解決できない複雑な社会課題の設定

③ 課題発見 x 解決人材育成プログラム

課題に対する具体的解決を
複数企業で取り組む

VCBP SCHOOL
for Social Innovation

- コミッティから発生した課題に応じて実施
- コミッティの参画企業の手、公募も予定



社会実装

※①プログラムを実施後、②、③へと展開予定



【その他/建築DX】九州大学: 建築DX人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 建築DX人材育成プログラム

② 目的

- 完全BIM化における価値創造と価値獲得を構想し実行できる設計事務所経営人材の育成
- 都市のDX化、デジタル・ツイン化を推進

③ 対象者層

- 徳島県建築士事務所協会 会員

④ 育成する人物像

- BIMが業界全体に浸透することにより、企画・設計・各種コンサルタント・施工・運営・管理・保守・リノベーション・解体に至る全ての関係者が同じファイルを活用できるよう、プロセスのデジタル化を図るための建築デジタル人材

申込方法

- 調整中※今後掲載(更新)予定

担当連絡先

- 藍谷鋼一郎、人間環境学研究院・D-Be部門・教授
E-mail:aitani.koichiro.195@m.kyushu-u.ac.jp
Tel:092-802-5383

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 九州大学建築DX人材育成講座モジュール
 - 座学と実習から必要な科目を選んで受講可能なフレキシブルな履修体制により裾野を広げる。※オンライン科目のみの受講も可能
- 座学
 - デジタル測量学特論(1単位)オンライン(夜間・休日)
 - BIM演習(2単位)ハイブリッド(夜間・休日)
- 実習
 - デジタル測量実習(2単位)オンサイト(休日のみ)

② アピールポイント

- 修了者には、マイクロレデンシャルフレームワーク1.0(※)を参照してメタデータ項目を設定したデジタルバッジを発行予定
※ 大学の国際化促進フォーラム、Japan Virtual Campus運営員会、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会の3団体合同によって設立されたマイクロレデンシャル共同WGにおいて2023.3.27に作成されたもの
- 受講者には、大学院進学(修士課程・博士課程)や一年間(12単位)の「建築デジタル人材育成プログラム」等への接続により、更なる学習機会を確保

【複数テーマ】神戸大学: 異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム



プログラム概要

① 名称

- 異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム

② 目的

- 新たな労働力創出に繋がる「DXスキルと価値創造的デザイン思考を身につけた新時代の分野横断的高度人材」を育成する。これにより、労働移動と企業の成長に直接貢献することを目指す。

③ 対象者層

- 人材のリスキリングを望む企業や、最新の知識や技能を学びたい個人

④ 育成する人物像

- DXスキルと価値創造的デザイン思考を身につけた新時代の分野横断的高度人材
- 人文知とコンセプチュアルスキルを活用し、組織内の雰囲気や人間関係の向上に貢献できる人材(企業経営者、人事担当者等)
- 多様な人々の能力が発揮できる組織作りを推進する、エンパワメントを促す省察的实践者(企業経営者、人事担当者、対人サービス従事者、カウンセラー等)
- デジタル技術と人的ネットワークを駆使し、地域活性化を主導できる観光人材(DMO・自治体職員、サステナブルコーディネータ等)
- ビッグデータを活用した実験をデザインし、DXの専門知識を応用して付加価値の高い製品・サービスを創出できる人材
- 健康管理に関する新たな社会サービスやアプリケーションを実装できる人材

申込方法

調整中※今後掲載予定

担当連絡先

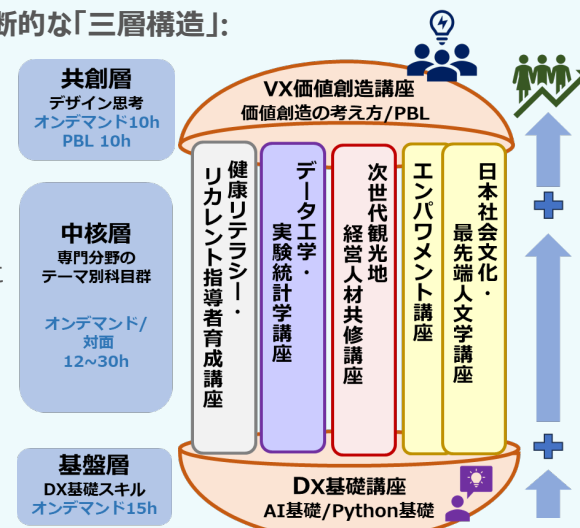
- 神戸大学リカレント教育推進室
Mail: ofpre-recurrent@office.kobe-u.ac.jp Tel: 078-803-5112

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 総合大学の強みを活かした分野横断的な「三層構造」:

- 基盤層(デジタルトランスフォーメーションDX):**
デジタル時代に必須の実践的なDX基礎スキルを学ぶ。
- 中核層(専門知):**
高度専門分野のテーマ別科目群を並列して開講し、ニーズに応じた選択受講が可能。
- 共創層(バリエーションVX):**
イノベーションに不可欠な創造的価値を生み出すデザイン思考・システム思考を学ぶ「価値創造講座」を開講。



- 多様な受講形式と柔軟な受講体系:

- 座学は主にオンデマンドやオンラインで提供され、PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)は対面の少人数単位で実施
- 各層の科目を単独で受講することも可能であり、部分受講にも対応

② アピールポイント

- 修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 三層を組み合わせて受講し修了した者には、「オープンバッジ (異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム)」が授与される。

【複数テーマ】神戸大学: 異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム



プログラムの詳細

総合大学の強みを活かした分野横断的な「三層構造」

- **基盤層(デジタルトランスフォーメーション:DX)** DX基礎講座:
デジタル時代に必須の実践的なDX基礎スキルを学ぶ
 - ★データサイエンス・AI基礎(15時間)
 - ★Python基礎演習 (15時間)
- **中核層(専門知):**
高度専門分野のテーマ別科目群を並行して開講し、ニーズに応じた選択受講が可能
 - ★日本社会文化講座(30時間)
 - ★人文学を解き放つ(16時間)
 - ★エンパワメント講座(35時間)
 - ★次世代観光地経営人材共修講座(22時間)
 - ★データエンジニアリング基礎(15時間)
 - ★実験科学のための統計学ハンズオン(30時間)
 - ★健康リテラシー講座(12時間)
 - ★リカレント指導者育成講座(12時間)

- **共創層(バリュートランスフォーメーション:VX):**
イノベーションに不可欠な創造的価値を生み出すデザイン思考・システム思考を学ぶ
 - ★価値創造の考え方(10時間)
 - ★価値創造実践ワークショップ(10時間)

修了者にはデジタルバッジを発行予定

三層(★ ★ ★のいずれか)を組み合わせ受講し修了した者には、「オープンバッジ(異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム)」が授与される。(各層の科目を単独で受講することも可能)

